

昭和 38 年度事務および事業報告

昭和 38 年 4 月から 39 年 3 月に至る間に行なった、事務および事業の概要は次のとおりである。

1. 会員

正員・准員の異動

	正員	准員	合計
入会	1,007	1,286	2,293
転出入	(+) 668	(-) 668	0
退会	493	83	576
死亡	52	4	56
差引	(+1,130)	(+) 531	(+) 1,661
合計			

38 年 9 月 20 日前副会長宮本茂義君が逝去した。

事業維持員の異動

	社数	口数
入会	28	36
退会	3	4
口数増加	11	66
口数減少	1	1
期末現在	416	1,320.5

名譽員の推薦 昭和 38 年 5 月の通常総会において、丹羽前会長、久保、野田、森島各前副会長の 4 君を、また 6 月には、米国 IEEE 会長ブルックリン工大総長 Ernst Weber および米国ユニオン大学名誉教授 Walter W. Lewis の 2 君を名譽員に推薦し、それぞれ推薦状を贈呈した。

期末会員数

	38年3月末	39年3月末	増減
名譽員	19	25	(+) 6
正員	14,857	15,987	(+) 1,130
賛助員	2	2	0
維持員	391	416	(+) 25
准員	2,368	2,899	(+) 531
合計	17,637	19,328	(+) 1,692

備考 正員中「終身会員」は 913 名

支部別 正・准員数 昭和 39 年 3 月末現在の支部別正・准員数は次の如くである。

	正員	准員	計
東京支部	7,688	990	8,678
関西 "	3,093	721	3,814
九州 "	861	167	1,028
東北 "	578	195	773
東海 "	1,485	274	1,759
中国 "	1,150	152	1,302
北海道 "	390	149	539
北陸 "	363	98	461
四国 "	379	153	532
合計	15,987	2,899	18,886

2. 会合数

本期間ににおける諸会合数は 946 回で前期 847 回に比し 99 回を增加了。

3. 規程の改正

從来電気学会雑誌の編修に関しては、「編修委員会規程」によつていたが、9 月にこれを廃し、新たに次の 2 規程によることに改めた。(規程全文、10 月号会誌本文記事)

電気学会会誌規程 会誌として、電気学会雑誌、電気学会雑誌海外版、Electrotechnical Journal of Japan の 3 種の発行につき、発行回数、会誌の内容、寄稿、編修等の基本的事項を規定した。

電気学会編修会規程 会誌編修会には、編修幹事会、編修企画委員会、論文委員会、学界時報委員会およびニュース委員会を設置することとし、その構成、運営などに関する事項を規定した。

4. 創立 75 周年記念事業

前々年設置の準備委員会の推進によって、諸計画の準備が整ったので、38 年 7 月準備委員会を改組して実行委員会とし実施にあたった。記念行事および記念事業の大要は次のとおりである。(詳細は、会誌 10 月記念号、11~3 月号本文記事)

記念式典・祝宴 10 月 22 日 東京
記念講演会 10 月 24 日 東京
記念放送 10 月 22・26・30 日 N

HK ラジオ・テレビ
記念出版 (10 月) (1) 電気学会
75 年史 (2) 四半世紀における
電気工学の変貌と発展 (3) 電
気学会雑誌記念号 (10 月号)

地方行事
関西支部 式典・祝宴・講演会
11 月 9 日大阪) 講演会 (10 月
26 日大阪)
九州支部 式典・祝宴・講演会

(12月9日福岡)

東北支部 講演会・祝宴 (12月6日仙台, 1月24日盛岡) 講演会 (11月15日, 11月26日, 1月20日米沢) 講演会・パーティ (1月24日, 盛岡)

東海支部 講演会・祝宴 (10月29日, 11月16日名古屋)

中国支部 式典・祝宴・講演会
11月13日広島) 見学会 (11月16日) 講演と映画の会 (1月

27日岡山, 1月29日鳥取, 1月30日島根, 2月3日宇部)

会員増加運動 (38年中, 入会者551名)

北海道支部 講演会 (10月28日札幌) 講演と映画の会 (11月4日室蘭)

北陸支部 式典・祝宴・講演と映画の会 (11月26日富山)

四国支部 式典・祝宴・講演会 (11月6日高松)

茨城支所 講演と映画の会 (11月16日日立) 見学会 (11月17日)

5. 功績者の表彰

昭和38年5月25日第51回通常総会において、次の諸君に賞状、賞牌および賞金を贈呈した。

電気学会功績賞 山崎久一君
電力賞 真田安夫君
同 武居功君・林潔君・前田利保君

電気学術振興賞

進歩賞 飯島泰蔵君・成田賢仁君・田中耕一君

同 坂本貞一君・百足恒彦君

同 宮下一雄君

同 吉野宗次郎君・平井善一郎君

論文賞 尾出和也君

同 川俣修一郎君

同 伏見光造君

著作賞 烏山四男君

6. 桜井資金による

海外派遣者

桜井資金による本期間における海外派遣者は、5月英國に開催したCIGRE第15研究委員会に出席した藤井新兵衛君であった。

なお、39年度における派遣者としては、39年6月のCIGRE大会に出席する近藤滉、藤高周平の2君を決定した。

7. 大会

38年電気四学会連合大会は、4月2日から6日にわたり京都にて開催、また10月から11月にかけては各支部において、それぞれ支部大会を開催した。一般講演件数は表示のとおりで、前年に比し444件を増加した。

	37年	38年	増減
全国大会	1,342	1,894	+552
東京支部大会	340	309	-31
関西"	340	215	-125
九州"	94	115	+21
東北"	99	126	+27
東海"	128	112	-16
中國"	36	50	+14
北海道"	58	66	+8
北陸"	30	37	+7
四国"	66	53	-13
合計	2,533	2,977	+444

備考 (1) 全国大会では、特別

講演4件、シンポジウム9課題、講演54件のほか懇親会、見学会(一般向4班、夫人向2班)をも催した。

(2) 東京支部大会は電気学会単独であるが、他の支部は電気関係学会各支部と共に開催で全国大会に準じた諸行事を行った。

なお、連合大会のありかたにつき検討するため、12月に、4学会連合の大会改善委員会を設置した。

8. 講演会・講習会・見学会

本期間に開催した講演会などは合計131回で、前年度に比し18回を増加した。(創立75周年行事を含む)

	講演会	講習会	見学会	合計
本部	1	—	—	1
東京支部	12	2	7	21
関西"	15	2	3	20
九州"	7	—	3	10
東北"	15	—	1	16
東海"	8	1	2	11
中国"	17	—	3	20
北海道"	8	1	1	10
北陸"	3	3	2	8
四国"	9	—	—	9
茨城支所	3	—	2	5
合計	98	9	24	131

9. 雑誌

本期間に、次の12冊が発行された。

巻・号	年・月	発行年月日	総ページ数
83・895	38・4	38・5・1	272
896	5	6・3	350
897	6	6・29	312
898	7	8・1	318
899	8	8・27	306
900	9	10・1	300
901	10	11・1	318
902	11	11・30	272
903	12	12・24	320
84・904	39・1	39・2・2	250
905	2	2・28	276
906	3	3・30	286

以上12冊の総ページ数は3,580ページで前期3,120ページに比し460ページの増となった。

また1冊平均は298ページで前期260ページに比し38ページの増となつた。

欄別ページ数を示すと次の如くであるが、本年度から雑誌の改善を実施し、「随想・論説、講演、技術総説、解説、講演、座談会記事等」と「資料・論文」(1月から単に論文とする)とに2分した、従つて欄の分類や配列も従来と異っている。

また表紙その他のデザイン、文字の配列なども新構想によつた。

前期		本期	
欄	ページ数	欄	ページ数
みどころ書	12	隨想・論説	57
資料・論文(含特集・討論)	16	講演	35
講演	991	技術総説	187
	23	解説	126

報 告	41	討議会・座談会	58
技術 総 説	129	技術レポート	31
学 界 時 報	449	規 格	9
特 許 紹 介	48	講 座	112
ニ ュ ー ス	69	学 界 時 報	409
会 員 の 声		特 許 紹 介	49
そ の 他 (座 談 会)	20	ニ ュ ー ス	61
小 計	1,798	本 会 記 事 調 査 委 記 事	103
目次・会告・会報	70	海外論文題目	71
本 会 記 事 調 査 委 記 事	97	そ の 他 (75周年特集他)	93
卷 目 次 (含大会目次)	78	小 計	1,801
製 品 紹 介	28	資 料・論 文 (39-1月号より論文)	805
広 告*	1,049	目次・会告 (含論文目次・論文要旨)	106
小 計	1,322	卷 目 次	52
	3,120	製 品 紹 介	22
合 計		広 告*	1,194
		合 計	3,580

* 表紙広告、綴込広告を含まない。

10. ETJ of Japan

本期間に、第7巻3、4号を発行し、論文15件73ページ、トピックスは17件8ページである。また邦文雑誌の巻頭に英文の内容梗概をつけた「海外版」は、37年12月号～38年12月号の13冊を発行し、英文欄の総ページ数は82

ページである。

11. 技術報告

本期間に、次の5冊を発行した。

号	発行年月	ページ数	報告件数
56	38・6	57	2
57	38・7	60	1
58	38・8	57	3
59	38・9	37	4
60	39・3	79	7

12. 出 版

- (1) 電気工学ハンドブック 5版
11刷(6月)
- (2) 電気学会75年史(10月)
- (3) 四半世紀における電気工学の変貌と発展(10月)
- (4) 電気工学ポケットブック・ジュニア版 9～11版(オーム社から発行)
- (5) 電気規格(JEC)初版 5点、重版 14点(電気書院から発行)
- (6) 電気専門用語 No. 3 半導体(コロナ社から発行)
- (7) 通信教育教科書 初版6点、

recording measuring instruments.

1. Recommendations for the standardization of nominal cross-sectional areas and composition of round copper conductors for rubber or polyvinyl chloride insulated cables and flexible cords with a rated voltage not exceeding 750 V.
2. Specification for a.c. motor capacitors.
3. Appendix C for I.E.C. Publication 99-1: "Guide to the application of non-linear resistor-type lightning arresters for alternating current system"
4. Recommendations for mercury-arc convertors for reversible power.
5. Recommendations for mercury-arc inverters.
6. Revision of I.E.C. Publication 54, Part 1: Recommendations for standard direction of motion of operating devices.
7. Amendments to the tables of standard insulation levels.
8. Recommended locking devices for ball and sockets couplings of string insulator units.
9. Recommendations for indirect writing electrical
10. Recommendations for tests on non-draining paper-insulated metal-sheathed cables for alternating voltage from 10 kV up to and including 33 kV.
11. Recommendations on cable selection.
12. Recommendations for carrying out the impulse withstand test on cables and their accessories.
13. Terminology for relays.
14. Standard atmospheric conditions for test purposes.
15. Recommendations for a specification for low-voltage control switches.
16. Chapter VIII, cavitation tests of the international test code for hydraulic turbines using laboratory models for acceptance tests.
17. Supplement to Publication 71: Recommendations for insulation co-ordination, concerning the tables of standard insulation levels.
18. Report of the W.G. on clearances and creepage distances for circuit-breakers and corresponding secretariat's questionnaire.

重版 50 点

13. 電気規格

新設した委員会

電気用語標準特別委員会電鉄用語

小委員会

送電用鉄塔標準特別委員会(再開)

電線規格単純化標準特別委員会

解散した委員会

半導体整流器標準特別委員会

規格の制定および改訂

JEC-157 水車の効率試験

JEC-158 標準電圧…JEC-34 の一部改訂

JEC-130 アルミ電線…1954年版の改訂

JEC-114 同期機…1954年版の改訂

JEC-74 イ号アルミ合金電線…1942年版の改訂

IEC 原案に対する意見

国際電気標準会議(IEC)よりの照会原案に対し、当会が審議し回答を出したものは、つぎのとおりである。

19. IEC Standard frequencies.
20. Test procedures for P. V. C. insulation and sheaths.
21. Test procedure for assessing flame retardance of cables.
22. General directives relating to the preparation of the international electrotechnical vocabulary.
23. Recommendations for tests of the corrosion resistance of the protection for metallic cable sheaths.
24. Amendments to publication 34-3: "Rotating electrical machinery (excluding machines for traction vehicles). Part 3: Ratings and characteristics of 3-phase 50 Hz turbine-type generators" to include innercooled machines.
25. Revision of Publication 34-1: Recommendations for rotating electrical machinery.
26. Methods for determining synchronous machine quantities from tests.
27. Recommendations for the types of enclosures and methods of cooling for rotating electrical machinery.
28. Addition to Publication 34-1 (6th edition) to include a clause dealing with irregularities of waveform.
29. Interim report of W.G. No. 2: Summary of points agreed by the W.G. at Bucharest (Electrical relays).
30. Questionnaire regarding definitions of various values concerning synchronous machines to be recommended for inclusion in the I.E.V. third edition, and choice of recommended relationship between direct and quadrature axis.
31. International electrotechnical vocabulary Economic
- nomic problems and tariffs.
32. Recommendation for power capacitors.
33. Proposed revision of IEC Publications 70-1, 70-2, E-capacitors based on W.G. meetings held in Paris.
34. Questionnaire concerning infra-red lamps.
35. Amendments to document 15 (C.O.) 21: Guide for the preparation of test procedures for evaluating the thermal endurance of electrical insulating materials.
36. Memorandum by the Secretariat on the work of Sub-Committee 7 A: Bare Aluminium Alloy.
37. Recommendation for a specification for rubber insulated flexible cables and cords with round conductors and a rated voltage not exceeding 750 V.
38. Recommendation for a specification for polyvinyl chloride insulated flexible cables and cord with round conductors and a rated voltage not exceeding 750 V.
39. Alteration proposed for Clause 21: light polyvinyl chloride sheathed flexible cord.
40. Recommendations for on-load tap-changers.
41. Symbols for elements of microwave techniques.
42. Revised draft international code for testing of speed governing systems for hydraulic turbines.
43. Inquiry regarding the extension of the scope of T.C. 15, Insulating materials, to include the preparation of specifications for insulating materials.
44. Request from CIGRE S.C. No. 14 "Teletransmissions" concerning the standardization of line traps.
45. Symbols for semiconductor devices.

JIS 原案作成

本年度中に日本工業標準規格(JIS)の原案を提出したものはつぎのとおりである。

(1) 磁気增幅器通則
(2) JIS C 4802「進相用高圧および特別高圧コンデンサ用リアクトル」改訂案

調査中の規格

(1) 標準用語(湿気・電鉄・給電・磁気增幅器などに関する用語)
(2) JEC-34 標準電圧の改訂

(1,000 V 以下)

		の改訂
(3) JEC-106	衝撃電圧試験の改訂	(9) JEC-125 断路器の改訂
(4) JEC-107	衝撃電圧測定法の改訂	(10) JEC-91 気中しゃ断器の改訂
(5) 交流電圧試験(一般規格)の作成		(11) JEC-113 電力ヒューズの改訂
(6) JEC-140	コンデンサ形計器用変圧器の改訂	(12) JEC-120 静止誘導機器の改訂
(7) JEC-143	繼電器用計器用変成器の改訂	(13) 保護継電器規格の作成
(8) JIS 交流積算電力計関係規格		(14) JEC-54 直流機の改訂
		(15) 半導体整流装置(その2)(ゲルマニウムおよびシリコン整流裝

<p>置) 規格の作成</p> <p>(16) 屋外用支持がいしの JIS 原案作成</p> <p>(17) JEC-128 送電用鉄塔設計標準の改訂</p> <p>(18) JEC-127 送電用鉄柱設計標準の改訂</p> <p>(19) JEC-137 硬アルミより線用接続管の改訂</p> <p>(20) JEC-138 鋼心アルミより線用接続管の改訂</p> <p>(21) 硬銅線用接続管規格の作成</p> <p>(22) JEC-139 ブチルゴム電力ケーブルの改訂</p> <p>(23) 電力ケーブル防食層規格の作成</p> <p>その他</p> <p>(1) 学術用語集電気工学編の増補・改訂を文部省に提案し、同省内に電気用語専門部会が設置された。</p> <p>(2) 電気学会専門用語集「半導体」を刊行した。</p> <p>(3) モールド形計器用変成器の絶縁特性の審議が終り、技術報告に発表の予定。</p> <p>(4) 限流形および放出形ヒューズのしゃ断奇酷について、各メーカーで実験を実施中。</p> <p>(5) JEC-157 水車の効率試験方法による現地試験の実施準備中。</p> <p>(6) 工業技術院の委託により、電線規格の統一整理の調査に着手した。</p> <p>(7) JEC の英文版の出版を行なうこととし、現在原稿を関係委員会で校閲中である。</p>	<p>磁性材料専門委員会 (常置)</p> <p>音響専門委員会 (研究)</p> <p>原子力発電所制御専門委員会 (常置)</p> <p>核融合専門委員会 (常置)</p> <p>解散した委員会</p> <p>電磁界理論専門委員会 (研究) ……常置専門委へ改組</p> <p>内外研究所調査専門委員会 (調査)</p> <p>工業教育専門委員会 (調査)</p> <p>高安定発振器専門委員会 (調査)</p> <p>配電盤専門委員会 (調査)</p> <p>電鉄用整流器専門委員会 (調査)</p> <p>サーボモータ専門委員会 (調査)</p> <p>電気設備防食専門委員会 (調査)</p> <p>高電圧試験専門委員会ケーブル高電圧試験分科会 (調査)</p> <p>原子力発電所制御専門委員会 (調査) ……常置専門委へ改組</p> <p>核融合専門委員会 (調査) ……常置専門委へ改組</p> <p>パラメトリック増幅器専門委員会 (調査)</p> <p>粒子加速装置専門委員会 (調査)</p> <p>高透磁率磁気材料専門委員会 (調査)</p> <p>シリコン専門委員会 (調査)</p> <p>直流き電回路保護方式専門委員会 (調査)</p> <p>調査完了項目</p> <p>[教育研究]</p> <p>(1) 諸外国における高等教育の現状について (技報 67 号予定)</p> <p>(2) 各国大学学部における電気関係科目調査結果一覧 (技報 67 号予定)</p> <p>[電気物理]</p> <p>(3) 集中形電極配置 (IEC 提案) と平行平板形電極配置 (オゾナイザ形) におけるコロナ放電機構の統一理論の確立とその実験的うらづけ</p> <p>(4) 電磁界理論における準解析延長の理論と応用</p> <p>(5) 陪直交性に関する基礎的な検討</p>	<p>〔電子回路〕</p> <p>(6) ランジスタ式過負荷防止回路付直流安定化電源 (12V・24V 用) (技報予定)</p> <p>(7) 現用回路部品の実情調査</p> <p>(8) 新形回路部品の動向調査</p> <p>(9) 高安定水晶発振器 (技報 64 号予定)</p> <p>(10) 標準周波数と標準時に関する CCIR 文書</p> <p>(11) 外国の VLF 局の調査</p> <p>(12) VLF 標準周波数受信に関する外国文献</p> <p>(13) わが国における VLF 標準周波数受信状況</p> <p>(14) VLF による周波数国際比較、VLF の日間位相変動、雑音</p> <p>(15) VLF 標準周波数受信装置の各重要要素</p> <p>〔電子装置〕</p> <p>(16) 1962 年度における電子管の進展について (送信管・受信管・速度変調管・進行波管・放電管・光電管・電子増倍管・電子線管など) (電気工学年報 38 年度版所載)</p> <p>(17) 放射線化学と粒子加速器 (技報 62 号予定)</p> <p>(18) パラメトリック増幅器の応用面の調査 (技報予定)</p> <p>(19) エネルギー変換論一般について</p> <p>(20) 化学エネルギーよりの変換 (燃料電池研究の動き)</p> <p>(21) 光電変換 (太陽電池)</p> <p>(22) 热電変換 (熱電素子の組立て)</p> <p>(23) メーザおよびレーザの各種方式および応用の調査 (電学誌所載)</p> <p>〔電気機器〕</p> <p>(24) 同期機温度上昇試験法 (JEC-114 改訂)</p> <p>(25) 水車発電機の運転および設計特性 (CIGRE へ回答)</p> <p>(26) 発電機定数および特性 (同上)</p> <p>(27) IEC 文書審議 (タービン発電機、同期機定数試験法関係) (IEC</p>

14. 調査研究

新設した委員会

- 電磁界理論専門委員会 (常置)
- 直流送電専門委員会 (常置)
- 絶縁材料耐トラッキング性試験法専門委員会 (調査)
- MHD 発電専門委員会 (調査)
- 制御機器専門委員会 (常置)

に回答)	(53) がいしの筆塗り汚損、霧中く りかえし定印法による試験結果 (技報予定)	(74) 過去における接点調査の検討
(28) 誘導機の漂遊負荷損 (技報 58号)	(54) 外部絶縁の開閉サージフラッ シオーバ試験 (中間報告) (技報 予定)	(75) 可聴周波における薄ケイ素鋼 の磁気試験法 (第1報) (技報 61 号) 〔電気化学・電熱〕
(29) 誘導機定数算定法 (技報予定)	(55) 絶縁耐力試験の意義について (技報予定)	(76) コロナ劣化機構究明のための 標準実験方法 (IEC 法)
(30) 整流火花の分類法 (技報 61 号)	(56) 100 kV 以下の系統の低絶縁 レベルに関する IEC 文書 (IEC に 回答)	(77) 上記実験方法の場合のコロナ 発生量測定法 (リサーディュ图形 法) の調査 〔電力応用〕
(31) 変圧器試験指針 (技報 66号 予定)	(57) OF ケーブルの高電圧試験に 関する推奨案 (技報 63号)	(78) 製鉄工業における配電設備な らびに配電方式に関する調査
(32) 変圧器ブッシング保護ギャッ プの有用性について (電学誌予定)	(58) OF ケーブル高電圧試験法の 現状	(79) PM 基準におけるおもな問題 点
(33) 内外避雷器の現状 (電気工学 年報 39 年版予定)	(59) OF ケーブルの代表的諸特性	(80) クレーン用電動機規格改訂に 関するアンケート
(34) 避雷器術語対照表 (英・独・ 仏・露)	(60) CIGRE 直流送電部会関係文 書 〔電気鉄道〕	(81) クレーン設備と電気工作物規 程など法規との問題点について
(35) 水銀整流器の等価試験に関す る IEC 文書	(61) 直流き電回路保護能力の検定 方法	(82) 化学工場における腐食性雰囲 気の実態調査 (技報予定)
(36) AC Motor Capacitor に関す る IEC 文書	(62) 直流き電回路保護の実態調査 (技報予定) 〔電気材料〕	(83) 化学工場における電気設備の 腐食状況調査 (技報予定) 〔原子力〕
(37) E-Capacitor に関する IEC 文 書	(63) シリコン・ゲルマニウムの蒸 着膜	(84) 原子炉の雑音解析
(38) Power Capacitor に関する IEC 文書	(64) モレクトロニクスについて	(85) 原子炉の自動起動 (アナログ およびデジタル方式)
(39) Self-heating metallized Po wer capacitor に関する IEC 文書	(65) シリコンの PN 接合の特性な らびにこれに関係ある材料の性質	(86) 原子炉の計算機制御の現況
(40) 磁気増幅器専門用語 (案)	(66) 高不純物濃度の拡散層の問題 点	(87) 原子炉計装における半導体回 路の現状と問題点
(41) JIS 「磁気増幅器通則」原案作 成 (工技院へ提出)	(67) シリコンの寿命、再結合	(88) 放射線計測回路における半導 体部品に対する要望事項
(42) 過電流に対する温度上昇 (技 報予定)	(68) 絶縁材料照射に関する技術報 告 (基礎編) の検討——照射と化 学変化、照射と機械的性質、照射 中の電気伝導と誘起光電圧、誘電 特性、絶縁抵抗	(89) 半導体回路を用いたパルス波 高分析器、高速度計数装置などに ついて
(43) 近距離線路故障しゃ断に関す る検討 (技報予定)	(69) 電線用プラスチックスおよび ゴムの耐放射線性	(90) 核融合および高温プラズマに おける技術的諸問題のうち
〔電 力〕	(70) 絶縁紙に対する電子線照射	(i) 大電流スイッチ技術
(44) 送電線の不平衡絶縁方式	(71) 照射ポリエチレンの工業化に おける問題点	(ii) マイクロ波によるプラズマ 診断の新技術
(45) 超高压送電線と特別高压送電 線の併架に関する問題	(72) ヨーロッパにおける放射線化 学研究	(iii) 超高真空技術
(46) 架空送電線氷雪事故の実態 (技報予定)	(73) 接点に関する内外規格および 仕様書の現状調査	(iv) レーザ
(47) 送電線の災害復旧対策		(91) 国内における MHD 発電研究 状況
(48) 電線振動に関する問題		研究専門委員会研究発表項目
(49) 電線溶断に関する問題		(1) 直交磁界形磁気変調器
(50) 軟弱地盤に対する鉄塔基礎の 研究		
(51) 電力用通信用語とその解説 (技報予定)		
(52) がいしの等価霧中電圧上昇法 による試験結果 (技報予定)		

- | | | |
|--------------------------------------|--|--|
| (2) ベクトルリアクトルとその応用——周波数倍増器 | (8) 積算計器の連続回転試験の試験基準 | (32) JEC-123 「電力線搬送用結合コンデンサ」改訂審議 |
| (3) 磁気倍周波数発振形比較回路をもちいたデータロガの一方式 | (9) 計器実態調査方法の基準化
〔電子回路〕 | (33) 電力用コンデンサの使用状況調査 |
| (4) 多相倍周波形磁気増幅器 | (10) 標準回路
(i) パンジスタ式 DC-DC コンバータ | (34) 計測用磁気増幅器
〔電力〕 |
| (5) 多孔磁心回路におけるトランジスタ | (ii) パンジスタ式 DC-AC コンバータ | (35) 架空送電線の耐氷雪設計手法に関する研究 |
| (6) 方形ヒステリシス磁心をもついた PWM 演算装置 | (11) わが国における VLF 標準周波数受信装置の検討 | (36) 超高圧送電線の静電誘導 |
| (7) リアクトル構成と跳躍現象 | (12) VLF 標準周波数受信回路の構成による分類 | (37) 超高圧送電線による電波障害の実態 |
| (8) 記憶の回路的考察 | (13) VLF 標準周波数受信装置の重要要素 | (38) 電力線搬送用結合装置仕様基準 |
| (9) ホール素子を用いた板状磁性体 B-H 曲線測定の一方法 | (14) VLF 標準周波数受信装置の試作仕様書作成および試作計画
〔電子装置〕 | (39) 電力線搬送用結合コンデンサの高周波特性 |
| (10) 鋼帶の移動速度の鉄損連続測定に及ぼす影響 | (15) 電子管の進展状況調査 | (40) 工場配電系統の実態ならびに波及事故の実績 |
| (11) ひずみ波形磁束における鉄損連続測定装置 | (16) 電子管の二次電子放出、光電子放出 | (41) 工場配電用機器仕様の実態ならびに機器の信頼性について |
| (12) 繼鉄形試験器による鋼帶の鉄損測定 | (17) 電子管のけい光体・ゲッタ・感光樹脂 | (42) 工場における系統および機器の接地の実態ならびに異常電圧について |
| (13) 試作鋼帶磁気特性連続自記装置の現況と問題点 | (18) 金属材料とガス放出 | (43) 配線工事の実態ならびに保護方式について |
| (14) 鋼帶用磁気試験装置 | (19) 各種の直接発電機の技術的问题 | (44) がいし汚損フラッシュオーバーの統計的検討 |
| (15) ディジタル計算機による短絡電流の計算 | (20) 各種の直接発電機方式の比較検討 | (45) 標準汚損フラッシュオーバー試験の確立 |
| (16) ディジタル計算機による安定度計算 | (21) メーザおよびレーザの各種方式の基礎的研究 | (46) 275 kV 送電線がいし装置の開閉サージフラッシュオーバー試験の実施 |
| (17) 交直連系系統における電力潮流および故障計算 | (22) 各種メーザ・レーザ発振材料 | (47) 内部絶縁モデルの開閉サージ絶縁耐力試験 |
| (18) 架空送電線の短時間電流容量 | (23) メーザおよびレーザの各種応用
〔電気機器〕 | (48) 長間隙気中ギャップの開閉サージフラッシュオーバー特性 |
| (19) 低励磁運転の安定度 | (24) 同期電動機に対する要求事項 | (49) 開閉サージフラッシュオーバー試験における湿度補正 |
| (20) 水力発電所における低励磁運転の試験結果の検討 | (25) 同期機テストコード | (50) 最近の直流送電関係文献調査
〔電気材料〕 |
| (21) Ward-Hale 法による電力潮流ディジタル計算の収束の検討 | (26) 誘導機の特性算定法 | (51) 絶縁材料照射に関する報告書
(応用編) 作成 |
| (22) 電力系統における非線形現象 | (27) 直流機の過渡特性の表わし方 | (52) 接点障害に関する実態調査
(i) 通信機関接点 |
| 調査中の項目 | (28) 短絡時における変圧器巻線の機械的強度について | (ii) 信号機関接点 |
| [電気物理] | (29) 避雷器特性要素の放電耐量 | (iii) 電力用しゃ断器接点 |
| (1) ガスと材料の組合せおよび特定ガス中における特異現象 | (30) SCR に関する各方面の要求、問題点のとりまとめ | (53) 在来の絶縁物耐トラッキング |
| (2) 絶縁物の漏えい機構 | (31) JIS C 4801 「進相用高圧および特別高圧コンデンサ用直列リニアクトル」改訂審議 | |
| (3) コロナ劣化の簡易試験法 | | |
| (4) コロナ放電諸量の測定 | | |
| (5) 放電物理における諸問題 | | |
| (6) 電磁界理論に関する文献調査 | | |
| (7) 陪直交性の応用に関する問題 | | |
| [電気測定] | | |

- 性試験方法の比較検討、ならびに
わが国に適した試験方法の決定
- (54) 各種絶縁物に対する耐トラップ
キング性試験結果の調査検討
- (55) 可聴周波における薄ケイ素鋼
の磁気試験法
- (56) ケイ素鋼板の磁気ひずみ
〔電気化学・電熱〕
- (57) ポリエチレンのコロナ劣化の
実態調査
- (58) 標準耐コロナ性試験法
〔電力応用〕
- (59) 直流機整流子条痕およびブラン
シ異常摩耗調査
- (60) 大形直流機検査基準
- (61) 無接点繼電器の使用状況調査
- (62) 鉄鋼生産に及ぼす影響因子に
ついて
- (63) クレーン保守の実態調査
- (64) クレーン使用状態の調査
- (65) クレーン標準仕様の作成
- (66) クレーンモータ馬力計算基準
〔原子力〕
- (67) 高速度放射線技術の現状と問
題点
- (i) エサキダイオードの諸特性
- (ii) エサキダイオードを用いた
パルス同期化回路
- (iii) ナノセコンド領域の放射線
計測技術の現状と問題点
- (68) 核融合および高温プラズマ研
究に関連した技術的諸問題

15. 通信教育

受講生の概況

当年度内新入受講生は、大学講座
1,483名、工高講座842名、また、
修了者は、大学講座1,410名、工高
講座557名であって、期末現在数
は、大学講座7,192名、工高講座
6,073名で、総数13,265名である。
講座別内訳は次のとおり。

講 座 别	新入生数	修了者数	期末現在 数
理 論 第1科	554	404	3,451
同 第2科	108	54	132
測 定 第1科	118	99	697

同 第2科	23	16	19	(1) 電気磁気学 (64~69版)
機 械 第1科	192	86	798	(2) 電気回路論 (55~59版)
同 第2科	19	16	24	(3) 過渡現象論 (39~42版)
発 変 電 第1科	51	458	569	(4) 放電現象 (35~38版)
同 第2科(火力)	0	0	2	(5) 原子物理学 (26版)
同第3科(原子力)	13	9	8	(6) 基礎電子工学 (17~21版)
送 配 電	154	121	558	(7) 電気磁気測定I (36~39版)
材 料	16	4	157	(8) 同 II (25~28版)
高 電 壓	17	13	10	(9) 同 III (13~15版)
電 気 鉄 道	43	36	192	(10) 応用計測 (6~7版)
応 用 第1科	12	8	124	(11) 直流機 (31~34版)
同 第2科	2	0	3	(12) 変圧器 (44~48版)
電 気 法 規	116	86	225	(13) 誘導機 (37~40版)
電子工学 第1科	44	0	216	(14) 同期機 (32~34版)
同 第2科	1	0	7	(15) 水銀整流器 (23, 24版)
(大学講座小計)	(1,483)	(1,410)	(7,192)	(16) 特殊機器 (10版)
合 計	2,325	1,967	13,265	(17) 遠隔断器、開閉器 (12, 13版)
				(18) 電機設計概論 (26~28版)
				(19) 變電工学 (25, 26版)
				(20) 水力編I (23, 24版)
				(21) 同 II (15版)
				(22) 送電編I (37, 38版)
				(23) 同 II (33~35版)
				(24) 同 III (26~28版)
				(25) 配電編 (29, 30版)
				(26) 高電圧工学I (13~15版)
				(27) 高電圧工学II (8, 9版)
				(28) 電熱工学 (17, 18版)
				(29) 電力応用I (8版)
				(30) 電力応用II (12版)
				(31) 電気関係法規解説 (18~20版)
				(32) 電気工作物規程 (改2版)
				(33) 電気施設管理 (10, 11版)
				(34) トランジスタ (18~22版)
				(35) 改訂電気材料 (11~15版)
				(36) 自動制御 (13, 14版)
				(37) 改訂電気鉄道 (8~11版)
				(38) 照明工学 (2版)
				(39) 電磁事象I 組合版 (32~35版)
				(40) 同 II 組合版 (25~27版)
				(41) 電気計測 組合版 (18, 19版)
				(42) 電気機械I 組合版 (23, 24版)

教材の出版

当年度内に発行された教材は、初
版の教科書6点、學習指導書8点、
また、重版では教科書50点（通計
133版）、機械部門スライド2点で
ある。内訳は次のとおり。

初版教科書

- (1) 照明工学（電力応用講座）
- (2) 電気工作物規程（電気法規講
座）
- (3) 自動制御（工高講座）
- (4) 発送配電II（工高講座）
- (5) 電気材料（工高講座）
- (6) 電子工学（改）（工高講座）

學習指導書

- (1) 原子力発電I（発変電講座）
- (2) 原子力発電II（発変電講座）
- (3) 電気鉄道 H.B.（電気鉄道講
座）
- (4) 電気理論I（工高講座）
- (5) 電気理論II（工高講座）
- (6) 発送配電I（工高講座）
- (7) 電気数学I（工高講座）
- (8) 電気数学II（工高講座）

教育用スライド

- (1) 直流機
- (2) 変圧器

重版教科書

(43) 同 II 組合版 (19~21 版)	(5) 電気計測 (改訂) 31,436 冊	分担して審議に参加した。
(44) 送電・配電 組合版 (17, 18 版)	(6) 電気応用 14,627 冊	また第 30 回大会は、明年 10 月に東京で開催されるが、現在日本工業標準調査会 (JISC) を中心に準備が進められており、当会も積極的にこれに協力している。
(45) 電気理論 I 組合版 (1 版)	(7) 発送配電 I 11,245 冊	第 29 回大会は、今年 5 月 19 日より 30 日までフランスのエクスレバン市で開催されるので、現在出席者の準備中である。
(46) 電気理論 II 組合版 (1 版)	(8) 電磁事象 I 1,406 冊	
(47) 電気数学 I 組合版 (1 版)	(9) 同 II 1,915 冊	CIGRE 関係
(48) 電気数学 II 組合版 (1 版)	(10) 電気計測 6,560 冊	第 20 回大会は、1964 年 6 月 1 日より 10 日までパリで開催されることとなっており、日本よりも藤高周平君を団長に約 20 名の出席が予定されているが、今年度は上記大会に提出する日本よりの論文の選考が行なわれ、下記の 6 編が選出され、提出された。
(49) 電気数学 III 組合版 (1 版)	(11) 電気機械 I 3,226 冊	(1) T. Takasuna, S. Fujitaka, et al.: Model Testing of Air-Blast Circuit-Breakers and a New Artificial Testing Line for Short-Line Faults.
(50) 発送配電 I 組合版 (1 版)	(12) 電気機械 II 8,296 冊	(2) K. Kitagawa: Forced Cooling of Power Cables in Japan. Its Studies and Performance.
通信教育行事、その他		(3) K. Hayashi : The Power Line Crossing the Seto Inland Sea (Chushi Power Line).
編修の概況		(4) I. Hano, et al.: Underexcitation Tests of Hydraulic Turbine Generators Connected to 275 kV Transmission Systems.
教材編修進行中のもの (21 点)、改訂準備中のものおよびその他については、次のとおりである。		(5) S. Fukuda, T. Umezu, et al.: The Present Status of the Economic Operation of the Power System in Japan.
編集中の教材		(6) T. Yamada, H. Kondo, et al.: Experimental Investigation of Corona on the 800 kV Tanashi Test Transmission Line.
(1) 発変電講座 2 点 (火力編 I 同 II)	(1) 昭和 38 年 4 月 21 日、文部大臣表彰式に大学講座 7 名、工高講座 3 名合計 10 名が受彰した。	IEC 関係
(2) 電力応用講座 1 点 (電気化學)	(2) 昭和 38 年 4 月 21 日、中央大学工学部にてスクーリングを開催した。	第 28 回大会は、5 月 26 日より 6 月 8 日までベニスにおいて開催された。開催された技術委員会の数は 32、このうち当会に関係の深いものとしては、図式シンボル、水車、標準電圧、輸送用電気設備、絶縁材料、端子記号、文字記号、超高压、防災機器、電力ヒューズ、がいし、避雷器、電気扇などがあった。当会よりは後藤電気規格調査会長ほか 10 名の代表を派遣し、各委員会を
(3) 電子工学講座 4 点 (電気通信概論、電子管、電子回路、電子計算機)	(3) 昭和 38 年 4 月 7 日、金沢市金沢大学にて、北陸地方受講生大会スクーリングを開催した。	
(4) 電気数学講座 3 点 (分冊未定)	(4) 昭和 38 年 11 月 10 日、山形市山形東高等学校にて、文部省指導のもとに秋季全国大会スクーリングを開催した。	
(5) 高専講座 11 点 (電気数学 I, 同 II, 電気法規、発変電、送配電、自動制御、計測、電子工学、電機設計、電子回路、電気応用)	(5) 本年度中実施した会議会合つきのとおり。 委員総会 2 回、理事会 11 回、創立 15 周年記念準備委員会 5 回、編修、指導、スライド各委員会計 87 回、合計 105 回。	
改訂準備中		
電気理論、電気機械工学、発変電工学、送配電工学各講座全教科書		
スライド製作		
工高講座程度の機械部門、スライド製作のうち現在進行中のもの「誘導機」「同期機」90 % 完成		
検定教科書		
文部省検定工業高等学校教科書の本年度の総供給数は 195,054 冊で、各冊の内訳は次のとおりである。なお、文部省へ申請中の「電気材料」「自動制御」「電子工学」「発送配電 II」の検定が許可となった。		
(1) 電気理論 I 33,819 冊	(1) 電気計測 31,436 冊	
(2) 同 II 30,885 冊	(2) 電気応用 14,627 冊	
(3) 電気機器 I 26,117 冊	(3) 発送配電 I 11,245 冊	
(4) 同 II 19,392 冊	(4) 電磁事象 I 1,406 冊	
	(5) 同 II 1,915 冊	
	(6) 電気計測 6,560 冊	
	(7) 発送配電 I 3,226 冊	
	(8) 電気機械 I 8,296 冊	
	(9) 電気機械 II 6,130 冊	
	(10) 電気計測 6,130 冊	
	(11) 電気機械 I 6,130 冊	
	(12) 電気機械 II 6,130 冊	
	(13) 送電・配電 6,130 冊	

された。提出論文数は 114 件（日本よりは 9 件の論文が提出された）、参加国 15、参加者約 700（日本よりは市川真人君を団長にして 10 人出席した）であった。

会議は 7 部会にわかつて、活発な討論が行なわれたが、とくに製鋼用アーク炉に関係ある論文が約 1/3 を占め、UIE の中心が大きくこの分野におかれながら、他の電熱工学分野を広く包含しようとしている傾向がみられた。7 部会の内容はつぎのとおりである。

- 1. 鉄鋼工業、電気化学、電気や金、
鋳造 2. ガラス、セラミック、焼
結晶 3. 金属・合金の熱処理 4.
非金属材料の熱処理 5. 電熱経済
6. 電熱材料、測定、計算 7. 用語
・標準・規格

その他

学会を通して代表が出席した国際会議に、つぎのようなものがあつた。

会議名(開催月日)	場所	出席者
International Conference on Nonlinear Magnetics (4月17日～19日)	ワシントン(米)	宮入 庄大(東京工大) 菊地 正(東北大)
Conference on Electronic Processes in Dielectric Liquid (4月23日～25日)	ダービー(英)	室岡 義広(防衛大)
国際度量衡委員会 電気諮問委 (4月30日～5月3日) 電離放射線諮問委 (5月6日、7日)	ティディングトン(英) セーヴル(仏)	井上弥治郎(電試)
CIGRE S.C. No. 15 Insulation Co-ordination (5月11日～15日) S.C. No. 3 Circuit-Breakers (5月20日～22日) S.C. No. 8 Lightning and Surges (6月18日)	ハロゲイト(英) フローレンス	藤井新衛(電試)
1963 Solid State Device Research Conference (6月12日～14日)	ミシガン大学	菊池 誠(電試)
IEC T.C. No. 22 Power Convertors (9月16日～28日)	モントルー	山田 英作(富士電機) ほか 2 名

IEC T.C. No. 2 Rotating Machinery CIGRE S.C. No. 17 Alternators (9月23日～10月20日)	レニングラード(ソ連)	山村 昌(東大)
Conference on Electrical Insulation (11月4日～6日)	ホワイトサルファスプリング(米)	中島 達二(電試)
IEC T.C. No. 33 Power Capacitors (11月13日～14日)	ロンドン(英)	上田 寛(日新電機)
Colloque International sur l'Électronique Nucléaire (11月25日～27日)	パリ(仏)	林 重憲(京大)

- (39 年 10 月) に参加承諾(2 月)
- (17) 国際自動制御連合 IFAC 東京シンポジウム(40 年春)の協賛を承諾(2 月)
- (18) 国際医用電子・生体工学会議(40 年 8 月)の協賛を承諾(2 月)
- (19) IEEE から本会雑誌「論文欄」の全訳英語版を出版の要請があり、これを承諾し、その第 1 号(Electrical Engineering in Japan. (vol. 83, No. 1)) が 3 月に発刊された。

役員改選報告

会長—林 重憲、副会長—田中直治郎、井上文左衛門、総務理事—川上寿一、会計理事—中路幸謙、編修理事—井上清二、寺尾 満、調査理事—藤波恒雄の諸君が、昭和 39 年 5 月の通常総会を以て任期満了となるので、改選の結果次の諸君が当選した。

会長 井上五郎君(中部電力)
副会長 荒川康夫君(電力中研)
同 真田安夫君(中国電力)
総務理事 川上正光君(東京工大)
会計理事 浅川七平君(東芝)
編修理事 梅津照裕君(電力中研)
同 高木純一君(早大)
調査理事 山村 昌君(東大)

この選挙における投票総数は 7,497 票、投票率は 51.3 % であった。各候補者の得票数は次のとおりである。(3 票以下省略)

会長 5,227 井上五郎、1,445 阪本捷房、768 浅見義弘、副会長(在京) 3,742 荒川康夫、1,760 小池勇二郎、1,671 武居 功、副会長(地方) 3,175 真田安夫、2,261 古賀孝 1,477 宮田秀介、総務理事 3,050 川上正光、2,124 関 壮夫、2,034 金岩芳郎、会計理事 2,703 浅川七平、2,348 国松賢四郎、2,102 草野光男、編修理事 3,332 高木純一、3,289 梅津照裕、3,025 鶴見策郎、2,361 佐波正一、調査理事 2,712 山村昌、

2,513 富田弘平, 2,045 百田恒夫

支部役員改選報告

支部役員半数改選の結果、次の諸君が当選した。(○印は本部評議員兼任者、*印は支部長推薦支部評議員)

(1) 東京支部

支 部 長 中路 幸謙(電 試)
庶務幹事 中西 邦雄(横浜国大)
会計幹事 正坊地隆美(日 立)
評議員 池沢 茂(日本電気)
同 石野 弘(電源開発)
同 ○小貫 天(早 大)
同 尾出 和也(電力中研)
同 ○川井 晴雄(日 立)
同 ○酒井 善雄(東京工大)
同 ○鈴木 桂二(N H K)
同 泥堂 多積(電 試)
同 ○広瀬 淳雄(電 機 大)
同 森 恒夫(東京電力)

(2) 関西支部

支 部 長 平井平八郎(大阪市大)
庶務幹事 村上 光昭(大阪市大)
会計幹事 小畠 嘉造(関西電力)
評議員 岩本 国三(同志社大)
同 ○浮田 勇(京 大)
同 滝 猪一(大阪府大)
同 塚本 秀雄(松下電器)
同 ○法貴 四郎(住友電工)

(3) 九州支部

支 部 長 中富 葵造(鹿児島大)

庶務幹事 吉田 典可(九 大)
会計幹事 吉富 直俊(九州電力)
評議員 ○入江富士男(九 大)
同 岡 次雄(九 工 大)
同 奥田 裏介(熊 本 大)
同 加来誠一郎(九州電力)
同 松岡 竜真(八幡製鉄)

(4) 東北支部

庶務幹事 穴山 武(東北大)
会計幹事 奥村 英策(東北電力)
評議員 阿部 幸平(東北金属)
同 ○一戸 英敏(岩手大学)
同 古田 正人(北芝電機)

(5) 東海支部

庶務幹事 奥田 孝美(名 大)
会計幹事 安生晃一郎(中部電力)
評議員 蟹江 邦雄(三菱電機)
同 ○小山 恒夫(信 州 大)
同 松本 欣二(静 岡 大)
同 武藤 三郎(名 工 大)
同 和田 丈夫(通 産 局)

(6) 中国支部

支 部 長 古賀 七郎(中国電工)
庶務幹事 青木 紀郎(中国電力)
会計幹事 松谷健一郎(中国電力)
評議員 *石井 泰安(通 産 局)
同 金沢 寅吉(電 試)
同 木本 正(中国電力)
同 佐藤 勇(日 立)
同 ○中村 正三(広 大)
同 皆川 邦夫(中国電工)

(7) 北海道支部

庶務幹事 鈴木 道雄(北 大)
会計幹事 小川 雄一(北 大)
評議員 ○富樫正一(北海道電力)
同 仲丸 由正(北 大)
同 二木 治郎(室 蘭 大)

(8) 北陸支部

支 部 長 原谷 敬吾(北陸電力)
庶務幹事 黒田 謙三(北陸電力)
会計幹事 篠田 理一(金 沢 大)
評議員 浦野 創(関西電力)
同 倉谷信四郎(北陸電力)
同 ○西岡 敬二(金 沢 大)
同 *宮越 正男(北陸電力)

(9) 四国支部

支 部 長 石橋 直次(四国電力)
庶務幹事 諸葛 一郎(四国電力)
会計幹事 植田 順一(四国電力)
評議員 浅田清一郎(四国変圧器)
同 川久保友一(宇治電化)
同 ○国近 昭徳(四国電力)
同 *小池恒久(新居浜高専)
同 原田 尚文(徳島大学)
同 松岡 文一(愛媛大学)
同 *森田 貢(南海電工)

昭和38年度会計報告

(1) 一般会計、調査会計、出版会計収支計算書

収入の部

科 目	一般会計	調査会計	出版会計	合 計
会 費 収 入	4,370,670	12,803,400	22,856,869	40,030,939
正 員 会 費	4,049,000	3,969,000	19,747,547	27,765,547
准 員 会 費	0	0	1,746,280	1,746,280
入 会 金	321,670	0	0	321,670
終身会員会費取くずし金	0	0	436,192	436,192
維 持 員 会 費	0	8,834,400	926,850	9,761,250
利 子 収 入	689,789	0	0	689,789
雑 誌 頒 布 収 入	0	0	2,112,842	2,112,842
図 書 頒 布 収 入	0	0	8,593,986	8,593,986
広 告 収 入	998,400	0	23,246,400	24,244,800
75周年史および参加収入	9,500	0	440,650	450,150
雑 収 入	820,750	176,500	341,902	1,339,152
補 助 金	0	0	0	0
臨 時 特 別 会 費 収 入	120,000	0	0	120,000
繰 入 金	950,000	0	0	950,000
合 計	7,959,109	12,979,900	57,592,649	78,531,658

支 出 の 部

科 目	一般会計	調査会計	出版会計	合 計
事 務 所 費	310,820	497,300	2,300,133	3,108,253
事 務 費	1,105,807	3,806,625	9,718,792	14,631,224
会 議 費	51,990	83,190	384,799	519,979
通 信 費	47,620	76,200	352,457	476,277
集 金 費	137,120	219,400	1,014,754	1,371,274
旅 費	2,080	3,330	15,480	20,890
職 員 退 職 給 与 金	14,000	22,400	103,900	140,300
諸 税	3,760	6,020	27,890	37,670
諸 会 費	57,600	0	0	57,600
支 部 費	3,110,000	0	0	3,110,000
大 会 費	142,000	0	0	142,000
賞 金 費	559,162	0	0	559,162
電 気 規 格 調 査 会 費	0	3,493,540	0	3,493,540
調 査 研 究 委 員 会 費	0	4,723,500	0	4,723,500
連 合 調 査 会 費	0	182,000	0	182,000
雑 誌 出 版 費	0	0	34,424,325	34,424,325
図 書 出 版 費	34,470	0	7,537,783	7,572,253
75 年 記 念 事 業 費	2,426,439	0	1,673,649	4,100,088
事 務 所 整 備 諸 経 費	17,360	0	0	17,360
合 計	8,020,228	13,113,505	57,553,962	78,687,695
差 引 過 不 足	-61,119	-133,605	38,687	-156,037

(注) (1) 一般会計の不足金 61,119 円、調査会計の不足金 133,605 円は特別積立金より繰入補填し、出版会計の剩余金は出版会計損益計算書に移す。

(2) 出版会計損益計算書

科 目	収 入	科 目	支 出
收 入	57,592,649	支 出	57,553,962
期末未収入金	8,569,072	期首未収入金	10,495,886
期末売掛金	690,785	期首売掛金	1,706,937
期末商品	3,082,016	期首商品	2,648,368
期首未払金	1,367,597	期末未払金	1,653,128
退職引当金戻入	103,900	退職給与引当金繰入	203,900
当期損失金	2,856,162		
合 計	74,262,181	合 計	74,262,181

(3) 出版会計損金処分

当期損失金	2,856,162 円
前期繰越損金	5,029,422 円
合 計	7,885,584 円

を後期繰越損金とする。

(4) 欠損処分

死亡、退会、除名による未納会費で収入の見込のない
 正員会費 446 名 1,840,200 円
 准員会費 249 名 650,230 円
 合 計 695 名 2,490,000 円
 を欠損処分とする。

(5) 出版会計収支細別

科 目	収 入			科 目	支 出		
	雑誌	図書	計		雑誌	図書	計
正 員 会 費	19,747,547	0	19,747,547	出 版 費	34,424,325	7,537,783	41,962,108
准 員 会 費	1,746,280	0	1,746,280	諸 経 費	11,134,564	2,783,641	13,918,205
終身会員会費 取 扱 く す し 金	436,192	0	436,192	75周年史支出	0	1,673,649	1,673,649
維持員会費	926,850	0	926,850	合 計	45,558,889	11,995,073	57,553,962
頒布収入	2,112,842	8,593,986	10,706,828				
広告収入	20,808,910	2,437,490	23,246,400				
75周年史収入	0	440,650	440,650				
雑 収 入	341,902	0	341,902				
合 計	46,120,523	11,472,126	57,592,649	差 引 過 不 足	561,634	-522,947	38,687

(注) 諸経費は収入の比により雑誌 80 %, 図書 20 % に分割した。

雑誌出版費原価 34,424,325円 ÷ 223,700冊 = 154円

" 総原価 45,558,889円 ÷ 223,700冊 = 204円

(6) 別途調査費

種 別	収 入			支 出	収 支 残 (次年度繰越)
	繰 越 金	受 入 金	計		
電食防止委	- 331,815	655,000	323,185	469,877	- 146,692
誘導調査委	484,036	1,038,000	1,522,036	747,825	774,211
CIGRE 国内委	1,279,703	2,097,360	3,377,063	1,141,241	2,235,822
電熱工学委	134,101	760,000	894,101	1,377,381	- 483,280
合 計	1,566,025	4,550,360	6,116,385	3,736,324	2,380,061

(7) 資 金 利 子

種 別	収 入			支 出	収 支 残 (次年度繰越)
	繰 越 金	利 子	残		
(1) 賞 金 資 金	17,817	42,400	60,217	37,000	23,217
(2) 浅 野 資 金	4,062	1,827	5,889	1,000	4,889
(3) 岩 垂 資 金	236,294	44,541	280,835	25,750	255,085
(4) 日 立 資 金	79,621	18,200	97,821	60,000	37,821
(5) 日本発送電資金	3,170,848	400,000	3,570,848	450,000	3,120,848
(6) 東北配電資金	140,203	100,000	240,203	100,000	140,203
(7) 九州配電資金	23,781	75,000	98,781	80,000	18,781
(8) 桜 井 資 金	430,133	999,864	1,429,997	705,211	724,786
合 計	4,102,759	1,681,832	5,784,591	1,458,961	4,325,630

〔用途〕 (1) 賞金資金：電気学術振興賞金の一部 (2) 浅野資金：功績賞金の一部 (3) 岩垂資金：エルンスト・ウェバー博士講演会費の一部 (4) 日立資金：支部講演会補助 (5) 日本発送電資金：賞牌作製費および支部講演会・講習会費補助 (6) 東北配電資金：電力賞費 (7) 九州配電資金：支部講習会費補助

(8) 貸 借 対 照 表 (昭和 39 年 3 月 31 日現在)

資 産 の 部				負 債 の 部			
科 目	公 益	收 益	計	科 目	公 益	收 益	計
有価証券	20,186,265	0	20,186,265	基 本 財 産	180,150	0	180,150
信託預金	2,270,095	0	2,270,095	賞 金 資 金	530,000	0	530,000
銀行預金	2,267,733	0	2,267,733	寄 付 金	17,755,013	0	17,755,013
振替預金	194,871	0	194,871	特 別 積 立 金	12,523,116	0	12,523,116
現 金	54,453	0	54,453	固定資産特別資金	13,134,814	0	13,134,814
権 利 金	2,992,000	0	2,992,000	職員退職給与金	500,000	0	500,000
敷 金	990,000	0	990,000	同 給 与 引 当 金	0	400,000	400,000
設備造作	7,080,000	0	7,080,000	別途調査費勘定	2,380,061	0	2,380,061
備 品	2,190,000	0	2,190,000	資 金 利 子 勘 定	4,325,630	0	4,325,630
返 払 金	7,829,892	132,978	7,962,870	雑 勘 定	206,173	0	206,173
未 収 入 金	0	8,569,072	8,569,072	未 払 金	0	1,653,128	1,653,128
売 掛 金	0	690,785	690,785	納 税 預 り 金	337,599	0	337,599
商 品	0	3,082,016	3,082,016	仮 受 金	9,635,908	0	9,635,908
繰 越 損 金	0	7,885,584	7,885,584	出版勘定元入金	0	2,854,152	2,854,152
出版勘定流用金	15,453,155	0	15,453,155	公益勘定流用金	0	15,453,155	15,453,155
合 計	61,508,464	20,360,435	81,868,599	合 計	61,508,464	20,360,435	81,868,599

(9) 通信教育特別会計

収支決算書

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
講座収入	5,883,473	教材費	37,461,682
配布収入	56,159,263	業務費	6,570,528
雑収入	792,521	管理費	17,336,795
前払金戻入	78,000	予備費	1,109,640
合計	62,913,257	合計	62,478,645
		差引残	434,612
		内訳	356,612
		{ 当期残 前払金戻入 78,000 }	
当期収入計	62,913,257	当期支出計	62,478,645
前期繰越計 (当座)	70,453	後期(当座) 繰越計(有価)	286,709 218,356
合計	62,983,710	合計	62,983,710

損益計算書

昭和 38 年 4 月 1 日から昭和 39 年 3 月 31 日まで

収入勘定		支出勘定	
科目	金額	科目	金額
期末売掛金	22,743,582	期首売掛金	20,069,859
期末商品	10,740,423	期首商品	9,306,318
期末原材料	1,958,468	期首原材料	2,003,290
期首未払金	5,337,500	期末未払金	5,695,979
期首前受金	896,000	期末前受金	912,100
収入金	62,835,257	教材費	37,461,682
内訳	講座収入 配布収入 雑収入	業務費 管理費 原価償却費	6,570,528 17,336,795 2,000
	5,883,473 56,159,263 792,521		
併変準備金戻入	920,000	貸倒準備金繰入	200,000
退職引当金戻入	899,739	併変準備金繰入 退職金引当繰入 当期剩余金	950,000 400,000 5,422,418
合計	106,330,969	合計	106,330,969

利益金処分

(i) 公収益利益配分

当期剩余金	5,422,418
公益分 (9.8%)	531,397
収益分 (90.2%)	4,891,021

(ii) 利益金処分案

当期剩余金	5,422,418	納税引当金	1,600,000
前期繰越金	716,958	別途積立金	3,500,000
		厚生積立金	500,000
		後期繰越	539,376
合計	6,139,376	合計	6,139,376

決算後貸借対照表

(昭和 39 年 3 月 31 日)

借 方		貸 方	
科目	金額	科目	金額
現金	689	未払金	5,695,979
預金	259,562	前受金	912,100
貯金	26,458	元入金	5,500,000
有価証券	6,256,323	別途積立金	23,000,000
前払金	3,582,000	厚生積立金	3,500,000
売掛金	22,743,582	貸倒準備金	1,250,000
商品	10,740,423	併変積立金	950,000
原材料	1,958,468	退職引当金	2,233,690
備品	4,000	納税引当金	1,990,360
		後期繰越	539,376
合計	45,571,505	合計	45,571,505

昭和 39 年度予算(案)

(1) 一般会計、調査会計、出版会計

科 目	収 入 の 部			
	一般会計	調査会計	出版会計	合 計
会 費 収 入				
正 員 会 費	7,000,000	4,500,000	15,094,000	26,594,000
准 員 会 費	0	0	1,833,000	1,833,000
入 会 金	300,000	0	0	300,000
終身会員会費取くずし金	0	0	450,000	450,000
維 持 員 会 費	0	8,304,000	2,016,000	10,320,000
小 計	7,300,000	12,804,000	19,393,000	39,497,000
利 子 収 入	666,000	0	0	666,000
雑 誌 発 布 収 入	0	0	2,009,000	2,009,000
図 書 " "	0	0	11,046,000	11,046,000
雑 誌 広 告 収 入	0	0	26,882,000	26,882,000
図 書 " "	1,500,000	0	2,692,000	4,192,000
補 助 金	0	200,000	0	200,000
雜 収 入	402,000	200,000	129,000	731,000
合 計	9,868,000	13,204,000	62,151,000	85,223,000
資金利子収入より繰入金	500,000	0	0	500,000
75周年事業繰入金	0	0	0	0
特別積立金繰入金	0	0	0	0
調査会計繰入金	0	700,000	0	700,000
通信教育会繰入金	500,000	0	0	500,000
総 計	10,868,000	13,904,000	62,151,000	86,923,000

(2) 通信教育特別会計

科 目	収 入	科 目	支 出
講 座 入	6,520,000	教 材 費	42,570,000
配 布 入	61,690,000	業 務 費	6,640,000
雜 収 入	600,000	管 理 費	16,470,000
合 計	68,810,000	予 備 費	3,130,000
		合 計	68,810,000

昭和 39 年度役員

(左側 39 年度、右側 39・40 年度)

会 長	井 上 五 郎
副 会 長	藤 高 周 平 荒 川 康 夫
同	篠 原 卵 吉 真 田 安 夫
総 務 理 事	堀 一 郎 川 上 正 光
会 計 理 事	永 井 勝 三 浅 川 七 平
編 修 理 事	阿 部 善 右 衛 門 梅 津 照 裕
同	宇 都 宮 敏 男 高 木 純 一
調 査 理 事	井 原 芳 雄 山 村 昌
支 部 長	

(東 京) 中 路 幸 謙

(関 西) 平 井 平 八 郎

(九 州) 中 富 葵 造

(東 北) 福 島 弘 納

(東 海) 鹤 米 一 郎

(中 国) 古 賀 七 郎

(北 海 道) 林 邦 雄

(北 陸) 原 谷 敬 吾 (39・40 年度)

(四 国) 石 橋 直 次 (39・40 年度)

評議員

(東 京) 後 沢 通 弘 小 貴 天

古 新 居 憲 川 井 晴 夫

酒 井 正 利 酒 井 善 雄

関 根 泰 次 鈴 木 桂 二

堀 井 武 夫 広 濑 淳 雄

(関 西) 大 石 嘉 雄 浮 田 勇

森 田 信 光 法 貴 四 郎

(九 州) 藤 野 義 一 入 江 富 士 男

(東 北) 三 瓶 久 利 一 戸 英 敏

(東 海) 上 田 実 小 山 恒 夫

(中 国) 宮 崎 貢 中 村 正 三

(北 海 道) 末 広 英 二 富 横 正 一

(北 陸) 長 田 晋 吾 西 岡 敬 二

(四 国) 平 井 澤 二 国 近 昭 德

科 目	支 出 の 部			
	一般会計	調査会計	出版会計	合 計
事 務 所 費	484,000	605,000	2,941,000	4,030,000
事 會 議 費	2,540,000	3,264,000	8,998,000	14,802,000
	94,000	117,000	589,000	780,000
役 員 改 選 費	29,000	38,000	183,000	250,000
集 旅 費	190,000	237,000	1,153,000	1,580,000
	3,000	4,000	18,000	25,000
職 員 退 職 給 与 金	51,000	65,000	315,000	431,000
諸 諸 税 費	31,000	0	0	31,000
会 費	52,000	0	0	52,000
文 部 會 費	3,150,000	0	0	3,150,000
大 賞 金	150,000	0	0	150,000
	500,000	0	0	500,000
電 気 規 格 調 査 会 費	0	3,475,000	0	3,475,000
調 査 研 究 委 員 会 費	0	4,894,000	0	4,894,000
連 合 調 査 会 費	0	170,000	0	170,000
雑 誌 出 版 費	0	0	35,508,000	35,508,000
圖 書 出 版 費	3,280,000	400,000	9,732,000	13,412,000
調 査 会 計 繰 入 金	0	0	700,000	700,000
合 計	10,554,000	13,269,000	60,117,000	83,940,000
予 備 費	314,000	635,000	2,034,000	2,983,000
總 計	10,868,000	13,904,000	62,151,000	86,923,000